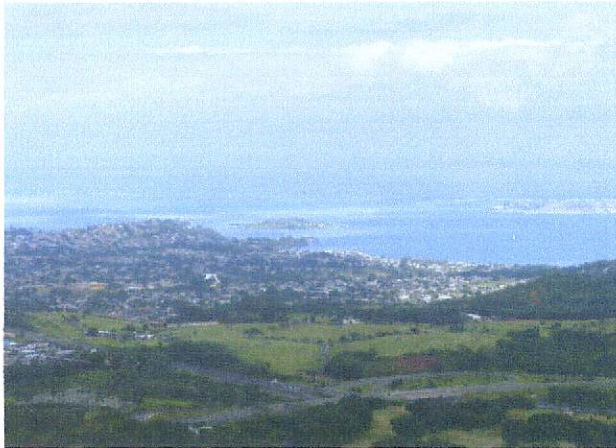


ハワイ研究レポート

岡山県 高原奈美

ヌアヌパリ



コオラウ山脈の途中にある、断崖の上の展望台で、ほぼ垂直に切り立っている崖の高さは900メートルにも及ぶ絶壁。

この場は1795年5月、カメハメハ大王がオアフ島の戦いで、オアフ軍を破った場所である。追い詰められたオアフ軍兵士達が、ヌアヌパリの絶壁から飛び降り、自決、または突き落とされた場所としても知られている。カ

メハメハ大王側は、銃や大砲を装備した近代軍隊だったのに対し、オアフ軍は弓と刀だけと言った装備だった為、歯が立たなかったのだ。

ヌアヌパリは山脈の切れ目に当たるため、いつも強い風が吹き付けている。そう言われていたのだが、この日は風がほとんど無い状態で残念だった。しかし周りに立っている木々が、強い風の為に斜めに曲がっているのを見て、ここでの風の強さを感じる事が出来印象的だった。ヌアヌパリからの眺めは、遠くの海までもが見渡す事が出来気持ち良く、とても綺麗だった。そう思う反面、この場所でカメハメハ大王とオアフ軍が戦っていたのだと思うと、この綺麗な風景とは対照的に思い、複雑な気分になった。

ワイキキ水族館



1904年に創立され、全米で3番目に古い公立の水族館。1919年からはハワイ大学の一部となっている。ここにはハワイ周辺の海域、南太平洋に生息する約420種類の生き物が展示されている。なかにはハワイアン・モンクシールと言った絶滅危機にある珍

しい生物も展示されている。

沢山のカラフルな、大小様々の魚がいて目を奪われた。特にハワイのアザラシが可愛く、ずっと立ち止まって見てしまった。この水族館では一人一台、レシーバーの様な物を渡され、そのレシーバーのボタンを押すと、自分の聞きたい生物の説明が流れるというサービスを行っていた。これは日本でもやったら良いなと思った。



この場所ではハワイ生物以外にピラニアも展示されている。ピラニアなどの生物は生態系を壊す恐れがある為、禁止されているのに無断で飼っている人がいたのだ。その事が公になり、ハワイ水族館に送られ、飼育されている。この事を聞き、一人の行動が大きな事を起こしうるのだと思い怖くなった。思いおこしてみると日本でもブラックバスなどが川に勝手に放流されるなど、生態系の変化が今現在でも起きているのだと気付いた。私達はもっと環境、生物などについて、目を向けなければいけないと思った。

更にここでは、水族館の裏側を見る事が出来た。普通に来たのでは絶対に見られない場所だと思い、貴重な体験が出来嬉しい思いをした。裏側にはホースや水道管の様な管、照明などが数多くあちらこちらに有り、魚達を大切に育てていること、そして大変さが身に沁みて感じる事が出来た。もう一つここでは珊瑚の繁殖を行っていた。頭の中で想像していたよりも、その規模は小さく、長方形の底の浅い、小さな箱の様な中で育てられていた。珊瑚が育つまでには数年から何百年とかかるものがあるらしく、その様な事からも、小規模に大切に育てているのかのように思った。

パンチボール

パンチボールは、国立太平洋記念墓地で、火山活動によって出来た高台である。パンチボールはハワイ語で「休息の丘」という意味がある。大二次世界大戦、ベトナム戦争、朝鮮戦争で戦死した約2万人の人々のお墓になっている。その中には日系人兵士も眠っている。

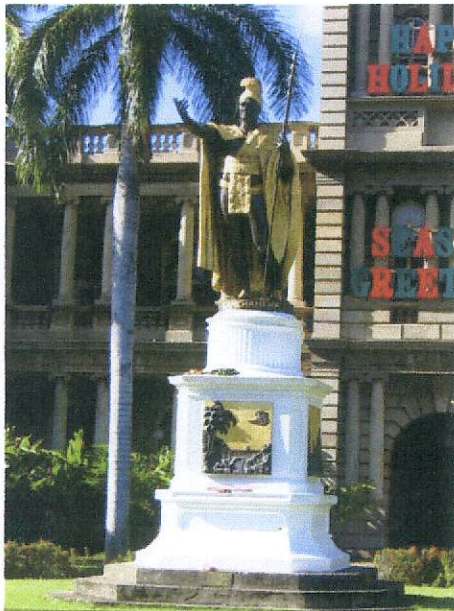
ここには日本人の戦争で亡くなった多くの人のお墓も在り、ハワイと日本の歴史的な関わりを感じた。そして沢山の戦死者の人のお墓が一面に並んでいて、戦争というものの恐ろしさを感じた。日本のお墓とは違い、小さく平らな石が規則的に芝生の上一面に並んでおり、綺麗に整えられていた。やはり他の場所とは違い、静かな違った空気と雰囲気を感じた。

ハワイ州官舎

ホノルルのメインストリートであるベレタニア通り沿いにある。立法の中心部であるここには、知事、副知事、上院、下院議員等の執務室がある。

バスの中からはしか見る事が出来なかったけれど、その造りは、官舎と言うよりも何か舞台などが出来そうな建物だった。

カメハメハ大王像



ハワイ旧裁判所の前に建っている。ここにあるものは複製で、ヒロ郡の非営利団体が村おこしの一環に1998年に建てたそう。本物はハワイ島コハラにある。

銅像はカメハメハ本人ではなく、宮廷仲間の中で最もハンサムな人をモデルにしたという話もある。

カメハメハ大王(1758~1819)

カメハメハ1世はハワイ島北部のコハラ地区に生まれ、当時ハワイ島を支配していたカラニウプウ王の甥でもあった。カメハメハとはハワイ語で「孤独な人」や「さみしい人」の意味がある。その理由は次の通り。カメハメハが生まれる前、予言者が「次に生まれる子は、すべての首長達を滅ぼしハワイ全土の支配者になるだろう」と予言し、その事を聞いた首長達は母親にカメハメハが生まれるとすぐに殺すように命じた。しかし母親はジャングルへ逃げ込みカメハメハを生んだのだ。このような事件があった事から、そのように名付けられたとされている。

カメハメハ1世は政治、貿易で業績を上げ、オアフ島ホノルル、マウイ島ラハイナを整備し、アメリカ西海岸とアジア太平洋岸を結ぶ航路の中継地点とした。ここにハワイの国際貿易が始まったのだ。カメハメハはハワイ王朝の首都をマウイ島ラハイナに遷し、この場を外国との貿易の拠点とし、独占した。

初めてカメハメハ大王像を見られて嬉しさが込み上げてきた。すべてに当てはまるが、今までテレビや写真でしか見られなかったものが目の前にあるのが、とても不思議だった。意外だったのが、像はもっと公園のような場所にあるのかと思っていたら、すぐ周りには道路があり、車が走っている状況に驚いた。後から複製だという事を知り、その為なのだろうかと思った。

ワイキキ海岸線



このような場所の白砂は、外国人などには白砂のほうが好まれるという理由からオーストラリアなどの外国から輸入されてきたもの。砂は、波により海の中へ消えていく為、現在も輸入され続けている。海の中に入った砂は、珊瑚の生息環境に良くなく、問題にもなっている。観光の場として多くの人で賑わっている場所。

ハワイと言ったら白砂というイメージだったので、白砂がハワイの自国のものでは無く、外国のものである事にショックを受けてしまった。ビーチ沿いにある植物に関しても外来のものが多く、ハワイの環境は昔から大きく変化しているのだと思い、悲しくも思った。一方でハワイの植物・生物を失わないように、活動が行われている事を聞き安心した。自分自身でもこのような活動を、自主的にでもいいから係わっていかないといけないと思った。またこの海岸線には沢山のサーファーの銅像があり驚いた。サーフィンが活発な国ならではだと思った。海岸を歩いていると天気の良いのもあって、とても暑かったのだが日陰に行くと、うって変わって涼しかった。さすがに空気が乾燥しているハワイだけあって日本とは随分違うなと思い、羨ましくなった。

ダイヤモンドヘッド



ダイヤモンドヘッドの名前の由来は、1700年代後期に西欧人の探検家や商人達が、火口壁に埋まっている方解石の結晶を見つけ、その石をダイヤモンドと見間違えた事から「ダイヤモンドヘッド」と呼ばれるようになった。

ここ、ダイヤモンドヘッドはココヘッドからワイアナエまでを一望出来ることから、オアフ島の海岸防衛

に理想的な場所だった為、1904年に連邦政府に買い上げられ、軍用地として指定された事があった。しかし戦時中ここから攻撃が行われた事は一度もない。現在は観光の場として利用されている。

ダイヤモンドヘッドは約30万年前に起こった一度の短期間の噴火によって形成されたと考えられている。噴火の際、空気中に吹き上げられた微粒子が結合して凝灰岩となり、ダイヤモンドヘッドの火口丘を形成した。受皿型の噴火口は1.4 Km²の広さで、その横幅は深さより大きく、風により灰が飛ばされる事で、西南部が最高頂となっている。

現在噴火口の周りで見られる動植物は、1800年以後ハワイに入ってきたもので、高温で乾燥している気候に適合した、特にマメ科のメスキートの仲間であるキアベ、コア、ハオレが多い。

山頂への道は、初め1908年米国陸軍沿岸防衛設備の一部として建設されたもので、山道入り口山頂までの距離は片道1.1 km、火口底面から山頂までの高さは170 mある。

ダイヤモンドヘッドはただの山のように思っていたのだけど、地上で見るダイヤモンドヘッドと上から見るものではイメージが全く違った。上から見ると全体が丸っぽい形をしていて、それは火山活動によって出来たものであるというのがよく分かった。登るまでには、山道や99段の急な階段などがあり、体力が必要だったけれど登ってみるとあっという間で早かった。登ると、前、後ろ、どこを見てもハワイの美しい景色に青い海が広がっており、とても気持ちがよかった。さっきまでの苦労した辛い思いが消え爽やかな気分になった。

サンセットビーチ

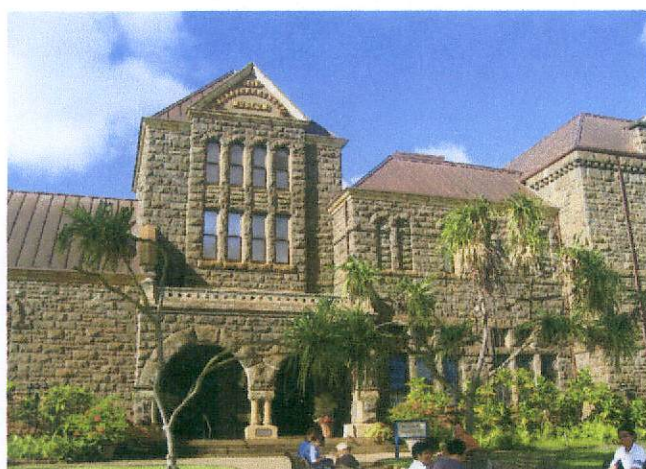


サーファーの人々にとっても人気のある場所で、ノースショアを代表するビーチ。冬には約3 mを超す大波が押し寄せ、11月には世界的なサーフィン大会、トリプルクラウンが開催される。

一面にエメラルドグリーンの海と高い波を見るとサーファーに人気が出るのにも納得し、私もサーフィンをやってみたい気分になった。砂があまり硬くなく、歩くと足首の辺りま

で足が沈み、歩くのが大変だった。ここで、ハワイ原産の植物を見ることが出来た。つるつるとしたような肌触りで、分厚く大きい葉はいかにもハワイという感じの植物だ。ハワイの植物は棘や毒のある植物は殆ど無く、そのような植物を見つけた場合には外国から来た植物と考えてよい、という話を聞きハワイの植物などの世界は割りと穏やかだったように思えた。

ビショップ博物館



建設され、現在ではハワイ太平洋諸島の文化に関する美術工芸品、文献、写真など200万点を超えるものが展示され、太平洋地域における自然史、文化史の主要研究施設、そしてハワイ州最大の博物館として利用されている。また日系移民を始め、ハワイのアジア系移民に関する資料も豊富である。

正称はバーニス・パウアヒ・ビショップ博物館。アメリカ、ハワイ州ホノルルにある私立の博物館である。ビショップ博物館は1889年、チャールズ・ビショップ(1822~1915)によって妻のパウアヒ王女への追悼記念として建てられた。パウアヒ王女はカメハメハ王家最後の直系子孫であった。当初、王家伝来の美術工芸品を収集するものとして

今まで見てきた博物館の中で一番趣があるなと思ったのが第一印象で、見た目も小さい城のような雰囲気ですごく素敵だった。現地の方が、この建物を小さいと思うかもしれませんが、ここは初めから博物館として建てられたものと言う話をしてくださったが、十分多きいと思ってしまった。中に入ってみても開放感のある造りで、沢山の資料が展示されていた。日本とはまた違った外国の文明があることを実際に目で見る事が出来、面白かった。海に近いだけあって貝を加工して装飾品として使用した服や飾りなどが多くあるように思った。国それぞれの文化というのは、一つ一つが違い、その国に生きてきた人々の証のように思い、日本でも昔からある伝統や文化を、大事にしていけないといけないなと展示品を見ながら思った。



ハナウマベイ



ハナウマとはハワイ語で、ハナは「湾」、ウマは「湾曲した砂浜」などという言葉の意味する。今から約3万5千年前、海底火山により火山錘が形成され、その後雨、海、風、による侵食を受け少しずつ火山錘は崩れていった。そして約7千年前、波の浸食により火口壁の一部が崩され現在の形となった。

オアフ島で最も人気のある海洋公園で、湾全体が保護されている。魚や珊瑚礁を観察することが出来、スノーケリングをする場所として人気がある。

ハワイにきた時から、海に入るのを楽しみにしていたので海に入った瞬間は本当に嬉しかった。海の中は見た目通りの美しさで、透き通った海水の中には珊瑚や色とりどりの魚がすぐ間近に泳いでいて、感動するばかりだった。浅瀬にまでその状態が広がっている様子は初めての体験で、ずっと見ていたい気分になってしまった。ハワイの海はどこに行っても美しく羨ましくなった。30分程しかその場所にはいられなかったけれど、一番の思い出になったように思う。日本に帰ってもこのハワイの海のことを忘れず、日本の海も守りたい。

ハロナ潮吹き穴 サンディビーチ



ハロナ潮吹き穴は溶岩が固まって出来た岩が、海の波の浸食によって所々穴があき、そこに波が入り込んで潮を吹き上げている。波が押し寄せると最高5,6mほどにも達し吹き上げる。

サンディビーチのサンディとは「砂」という意味。ボディボードをする姿も見られる。

風が強く、深い海と波とで、迫力があつた。穴から潮が吹き上げる様子は、人が手を加えたものではなく、自然の中で少しずつ作りあげられていったのだと思うと、自然とは凄いと思わされた。だからこそ多くの人々が集まってくるのかもしれないと感じた。

えたものではなく、自然の中で少しずつ作りあげられていったのだと思うと、自然とは凄いとあらためて思った。だからこそ多くの人々が集まってくるのかもしれないと感じた。

ハワイ大学研究施設



一般の人はここも入ることが出来ないらしく、この場所に来ることが出来たのはとてもいい経験となった。

研究施設は小さな島のような場所で、その周りには珊瑚が沢山生息しており、その様子は、今までで一番綺麗に感じた。施設の中には珊瑚などの生物の繁殖が行われており、その中には鮫もいて間近に見ることが出来たのだが、意外と小さくて可愛く感じてしまった。他にもタコといった生物まで、様々な種類の生物がいた。見ていくなかで、海洋生物について研究されているのがよく分かり、また色々なところで珊瑚の繁殖が行われているのだと思った。それだけ珊瑚などの生物の重要性、生長するまでの大変さを感じた。それだけ自然というものは簡単なものではなく、人間の勝手に壊してはならないもののだと思った。どんなに文化が発展しようと、そのことを忘れてはならないと強く思った。



海外視察を終えて

ハワイにいる間はとても忙しかったけれど、終わってしまうとあっという間の日々だった。ハワイに実際に行ってみて、今まで写真やテレビの中で見て想像していたものと、実物を見た時の違いや、実物の迫力に驚いたことなど、毎日が初めてのことばかりが続き、楽しかった。自分にとっても予想以上に得るものが多く、環境など様々なことについて、考えることの出来るきっかけにもなった。また海外の方々にも触れることで、自分の中の世界が広がったように思う。

そしてこのハワイ視察に終わらず、世界のこと、日本のこと、環境全体のことについても今まで以上に考えていこうと思った。